

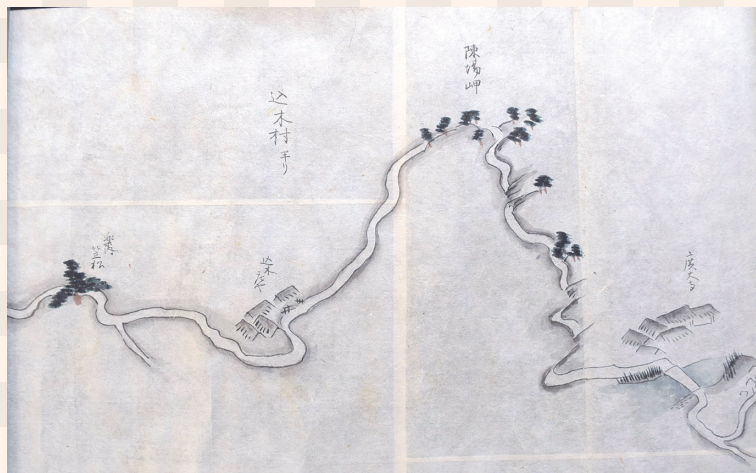
# れきみんコラム

## 町村合併あれこれ 三春町と中郷村と中妻村

明治22年の町村合併で、三春町の合併はなかったのですが、その境界や飛地(とびち)については、だいたひ揉めるところもあったようです。飛地とは、藩の所領が、あちこちに散在することを指す場合もありますが、この場合は本村と地続きではない、他の村の中に入り込んでしまった土地のことで、河川の氾濫で土地利用が変わってしまったり、新田開発等の結果、入り組んだ状態になったりして発生することがあります。明治40年代に編纂された、三春町郷土史の説明では、「24年11月中郷村大字込木のうち番組頭・庚申坂・化粧坂・八方谷の一部の四字(あざ)を三春町に編入し、同時に三春町字沼ノ倉の一部を中妻村に、同栗林の一部を中郷村に組替え」となっており、すっきりと小字の組み替えがあったように書かれていますが、中郷村とは境界争いになっていました。

明治23年度の三春町役場事務報告を見ると、地理に関する事務という項目があり、三春町側の言い分ながら、細かな説明があります。まず三春町から中郷村・中妻村へ飛地があり、中郷村から三春町への飛地もあるため、それらは所在する町村に組み替えようと手続きを行っていました。しかし、三春町が主張する「中郷村大字案内より当町字番組に飛地」は、中郷村からすると「案内から番組に突出した土地は道路で接続しており、飛地ではない」また、明治21年の地図にも中郷分となっているから、逆に訂正してほしいと主張されます。これに対して三春町側は、21年調整の地図が間違っているとしますが、両者は譲らず、明治23年12月、郡役所立ち会いのもと現地踏査が行われます。24年6月、三春町より中郷村大字込木に通じる道路中、三春町字番組と中郷村大字案内との境界に係る道路敷は、中郷村地内に属すると、田村郡役所は判断を下したのです。

※本コラムは、明治時代の状況を概説するもので、現在の、実際の土地利用等の状況とは異なる場合があります。



諸街道延絵図より 広(光)大寺~込木村~案内笠松まで

# 広告欄

広告欄